

地域で育む子どもの居場所づくり

～「孤そだて」から「子そだて」へ～



滝瀬卓弥



JA相模原市

亀崎 敦



いい「土」 いい「笑顔」

JAあいち中央

西岡慎一郎



JAえひめ未来

田坂 康人



現状と課題

子ども(家庭)を取り巻く主な環境

社会・経済

- 共働き・共育てを応援
- 貧困問題(学びの機会制限)
- 教育機会の格差
(教育環境の地域格差)
- 社会的孤立(地域とのつながり希薄化による家庭の孤立)
- メディアの影響(SNSなど)

地域・学校

- いじめ問題(精神的な健康問題)
- 教師の過重労働・スクールカウンセラー不足(学校から個別の対応が十分に受けられない)
- 地域のサポート不足(地域活動が不足し、子どもが地域とつながる機会が少ない。)

家庭

- 核家族化、共働き世帯の増加
- 家庭内暴力、虐待、自殺
- 共働き世帯の負担増加(子どもの学習や生活支援が不足)
- 経済的プレッシャー(経済的問題等に起因する親のストレス)

平成6年 令和6年
共働き世帯率 50.3% ▶ 71.8%
1.4倍 (357万世帯増)

学校から帰っても家に誰もいない。＝「子どもだけ」で過ごすことが増加

総務省「労働調査特別調査」、「労働力調査(詳細集計)」より

現状と課題

アンケート

【対象：30歳までのこども・若者、回答者数：2,036名】

■家や学校以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がほしいですか？（n=2,036）



■別の居場所がありますか？（n=1,465）



Point

■72%が別の居場所がほしい

■4人に1人が居場所が無い

なぜ子どもが居場所を求めているのか？

多くの時間を過ごす「家庭」や「学校」が安心できる場所でないからではないか？



2

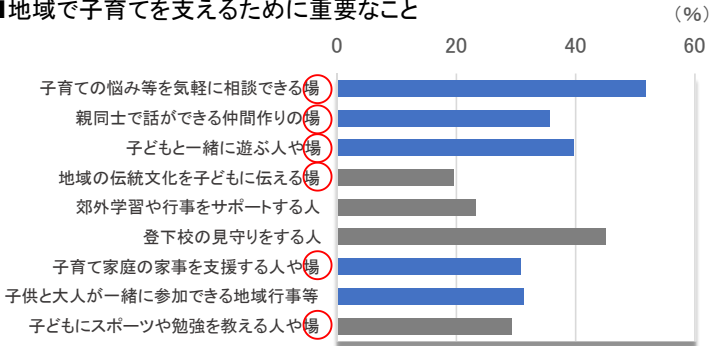
出典：こども家庭庁『こどもの居場所づくりに関する調査研究 報告書概要（令和 5年3月）を基に加工

現状と課題

調査

【対象：0～18歳の子供を持つ20～54歳の父母、回答者数：3,421名】

■地域で子育てを支えるために重要なこと



出典：家庭教育の総合的推進に関する調査研究（令和 2年度）文部科学省委託調査（株式会社インテグリサーチ）より

今般実施したJA内のアンケートでも「相談やサービスが受けられる場がほしい」や「登下校が心配で時短休暇をしたい」を求める意見がでていた。

■複雑・複合化した課題
■価値観の多様性

Point

家庭や学校だけの支援が不足しがち

子どもが安心して過ごせる「居場所」、地域で子育てを支える「場」や「人」を提供する事業を考案

3

新規事業提案

地域で育む
子どもの居場所づくりの設立
～子どもの第三の居場所～
「みんたま」
NPO 法人

4

新規事業提案

～子どもの第三の居場所～
みんたま

「第三」
の居場所
とは…

■「学校」と「家庭」に次ぐ3つ目の場所
■物理的な「場」だけでなく、遊びや体験活動、オンライン空間
といった多様な形態。
■過ごし方等は一定の選択性があり、子供達の主体性を重視

具体的
事業内容

安心できる居場所の提供

学びと成長の機会

健康サポート

■子どもたちが安全・安心に過ごせる場
■登校前・放課後の“子供だけ”を解消
■学習サポートとワークショップ
■食事の提供

5

3

新規事業提案

居場所が
ほしい子ども



子どもの第三の居場所

みんな

地域性ある体験
ボランティア講師
個人サポーター会員

地域

ボランティア
(シルバー層、学生)
地域団体
(NPO、民生委員)

子育て支援・健康情報
他学童等との連携、助成

行政等

行政、学校
病院

運営支援、保有資産提供
農産物提供、農業体験

J A

ワークショップ等の企画
教育関連企業との連携
企業サポーター会員

企業

地元企業
教育関連等

6

新規事業提案

～1日のながれ～

～子どもの第三の居場所～

みんな



登校前

登校前の預かり



子どもだけでなく、親にも
安心を提供



登校時

大人に見守られながら、
グループ登校



生徒同士や、ボランティア
の見守りで地域単位で
安全配慮



放課後

学習支援やワーク
ショップ
食事の提供



ボランティアが参加するこ
とで、地域が輪になり
子どもの成長を支える



帰宅

子どもの状況を
アプリ等で共有



学校や「みんな」の話で、
コミュニケーション向上

※地域によっては、PTAや登校班が廃止になっていることもある。

7

新規事業提案

～子どもの第三の居場所～



※S市(学童クラブ)を参考

学童クラブ

対象	○ 全小中学生	△ 小学生(1年生～3年生) ※特別な支援が必要な児童は6年生まで
場所	○ 小学校単位	○ 小学校単位
時間帯	○ 全日(7時30分～19時) ⇒登校前、放課後をカバー ⇒土日祝日でも対応 ⇒長期休み(夏休みなど)	△ 月～金(授業終了～18時) 土曜 8時～18時まで ※延長育成が19時まで可能
料金(月額)	△ 基本利用料：5,000円 ワークショップごとに別途	△ 育成費：5,300円 おやつ代：2,000円 延長育成料：1回200円
地域との関わり	○ ワークショップや相談会等の開催 近隣住民・ボランティアの参加 コミュニケーションの場の提供	△ 通っている児童のみ
情報共有	○ オンライン、LINEを活用	△ 基本は口頭での伝達

8

収支計画

体制
づくり

NPO
設立

1
年目

5
年目

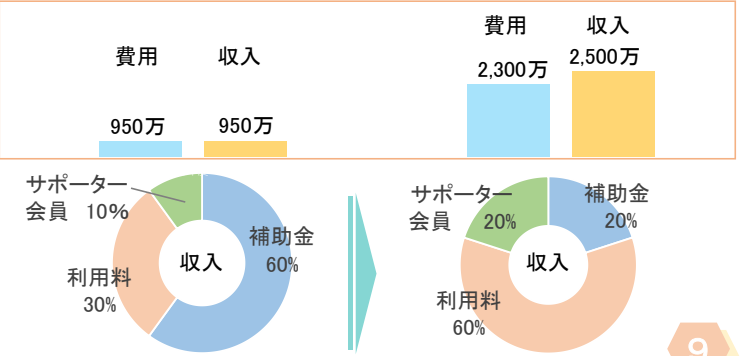
JA・
地域企業等が
バックアップ

～子どもの第三の居場所～



1施設(50人)

5施設(250人)



9

